

魅力発信！えひめ農業 NOW

令和6年1月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、1月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564


<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>




目次

目次	1
1月のトピックス5選	3
地域農業の未来を見据えて集落で協議	3
都内丸の内ではまなみ食材フェアを開催	3
女性の活躍は働きやすい環境づくりから	4
もも産地再興を目指し改植障害対策を現地実証	4
樹勢コントロールのコツを学ぶ	5
えひめ農業NOW	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
新規就農者等が鳥獣害対策の基礎を学ぶ	6
一次産業女子が糶について研修	6
■東予地方局 産地戦略推進室	7
長期貯蔵試験メロンの品質を評価	7
いちご生産者等を対象にデジタルマーケティング講習会を開催	7
品質向上を目指したシキミせん定講習会を開催	8
■今治支局 地域農業育成室	8
就農に向けて経営開始前に重点的に個別相談	8
地域での担い手育成を思い家族経営協定を結ぶ	9
神宮（かんのみや）女性みかん学級を開催	9
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	10
簡易土壌診断でかんきつ園地の土壌改良を推進	10
■今治支局 産地戦略推進室	10
廃ハウス資材を利用した低コストモデルハウスの建設開始	10
今治産イタリア野菜を使用したメニュー化の提案	11
■中予地方局 地域農業育成室	11
「新・農業人フェア」で就農相談に対応	11
農業研修生等を対象にパソコン簿記記帳を指導	12
農業女子がかんきつ低コストハウス・省力栽培について学ぶ	12
鳥獣害防止対策研修会を開催	13
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	13
先進地事例を学んで集落営農組織の連携強化	13
「媛かぐや」の産地化を目指して	14
「媛かぐや」の試食販売・PRを実施！	14
「媛かぐや」の消費拡大に向け、調理研修会を開催	15
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	15

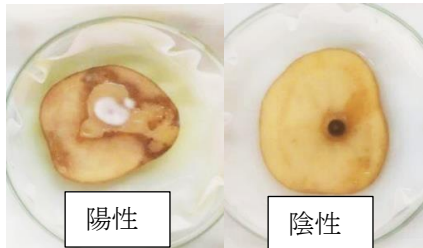

夏秋トマト・ピーマンの実証成果を報告	15
グリーンな栽培体系の普及推進	16
■中予地方局 産地戦略推進室	16
パクチー冬季栽培の取り組み	16
■南予地方局 地域農業育成室	17
さといも優良種芋の安定生産に向けて	17
集落営農法人の連携強化について協議	17
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	18
管理しやすい園地へ！くりせん定講習会を実施	18
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	18
鳥獣捕獲のためのくくり罠設置指導	18
西予市の就農支援事例を調査	19
■南予地方局 産地戦略推進室	19
媛小春販売戦略を協議	19
つるむらさきの販促活動状況を報告	20
■八幡浜支局 地域農業育成室	20
イノシシ効率捕獲に向けた新しい撒き餌を提案	20
個別巡回により新規就農者の悩みを解決	21
子供連れ参加で農業女子の交流促進	21
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	22
青年農業者が新たな防護技術を学ぶ	22
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	22
マイネットと若手女性農業者がワークショップで交流	22
■八幡浜支局 産地戦略推進室	23
青ねぎの先進地（四国中央市）への視察研修	23
■農産園芸課 高度普及推進グループ	23
県下の優良園地から「紅プリンセス」の栽培技術を学ぶ	23


1月のトピックス5選

標 題	地域農業の未来を見据えて集落で協議		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年1月22日	場所	大西山田集会所（四国中央市土居町）	
指導対象	天満の未来農業を考える会（7人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○「天満の未来農業を考える会」主催の農業情勢等意見交換会の開催を支援した。</p> <p>○当日は、鳥獣被害や農地の問題などの意見が出され、市や当班も加わり解決策を検討するとともに、今後、作成が本格化する地域計画についても協議し、5年先、10年先の農地をいかに守っていくか様々な意見が出された。</p> <p>○当班からは、地域の重要課題であるイノシシの被害対策として、ワイヤーメッシュ柵下からのもぐりこみを防ぐため、フェンスタイプの資材を用いた新技術と従来の技術との比較を行い、費用対効果も含めて今後検証することを説明した。</p>			
結果と今後	<p>○鳥獣被害は長期間に及ぶ対策が必要となることと、優良農地は担い手を明確化した上で耕作を継続し、地域全体で農地を守っていくことの意識統一ができた。</p> <p>○今後、地域計画は市が農業者に意向調査を実施し、必須となる目標地図を作成することとなるため、当班はこれらの取組みを継続して支援する。</p>			
				<p>【天満の未来農業を考える会】 集落活性化検討組織として、 令和5年5月に発足。</p>
鳥獣害対策や人と農地の問題を協議				



標 題	都内丸の内ではまなみ食材フェアを開催		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年1月12日～28日	場所	KITTE 丸の内（東京都）	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ会員（6人）	連携機関	シン・エヒメ	
普及指導内容	<p>○都内丸の内の商業施設「KITTE」において、しまなみ地域の農産加工事業者グループ「しまなみみんなのディッシュ」の商品を販売するフェアの開催を支援した。</p> <p>○フェアは「普及組織による戦略的流通販売促進支援事業」を活用して開催したもので、オープニングの12、13日には、蛇口から有機みかんジュースの試飲体験や大三島産ワインのテイスティング講座を開催したほか、20、21日はジャム、28、29日にはオリーブの試食会を開催し、フェアを盛り上げた。</p>			
結果と今後	<p>○当室では、引き続きしまなみ産食材の販売活動を支援していくとともに、新たに開設したしまなみ食材を紹介するポータルサイト「しまなみみんなのディッシュ」の活用を通して、各事業者の商品や地域農業の魅力を消費者等に発信する。</p>			
				
店頭での食材紹介コーナー		有機柑橘ジュースの試飲販売		ワインのテイスティング講座



標 題	女性の活躍は働きやすい環境づくりから		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年1月15日	場所	テクノプラザ愛媛	
指導対象	農業組織リーダー、農業指導士、家族経営協定締結農業者ネットワーク推進協議会等 (26人)	連携機関	中予管内市町及び農業委員会、JA (松山市、えひめ中央)	
普及指導内容	<p>○中予地区農山漁村男女共同参画連絡会議の開催にあわせ、研修会を開催した。</p> <p>○連絡会議では、「愛媛県農山漁村における男女共同参画に関する方針」と現状を報告するとともに、参集者が女性の活躍推進について意見を交換した。</p> <p>○研修会では、(株)ニューズの代表取締役 土居裕子氏による、社員教育の重要性や働き方改革の取組みについての講演を行うとともに、女性でも扱いやすい電動の一輪車やハサミなど、省力機械の紹介と実演を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○研修会では、土居社長に対してかんきつの生産・販売体制と海外輸出への展望や、子育て期間中の勤務体制などの質問が出された。また、電動省力機械については、参加者が実用性を体感した。</p> <p>○当室では、地域における男女共同参画意識の醸成やリーダーの育成等を通して、女性の活躍を今後も推進していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>会議での意見交換</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(株)ニューズの講演</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>電動農機具の実演</p> </div> </div>				



標 題	もも産地再興を目指し改植障害対策を現地実証		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年1月22日	場所	松野町	
指導対象	松野町もも生産者	連携機関	松野町、松野町農林公社、JA えひめ南、果樹研究センター	
普及指導内容	<p>○最盛期の10分の1に減少した松野町もも産地の再興を支援する当班は、生産量低迷要因の一つである改植障害に着目し、生産者及び関係機関と対策を協議した。</p> <p>○事前に行った土壌及び樹体の分析結果等から、他産地でも問題となっている「モモ胴枯細菌病(土壌病害)」が主たる要因と推定されたため、苗木周囲の土壌消毒や拮抗微生物資材の土壌混和による病原菌抑制などの土壌環境改善対策について現地実証を開始した。</p>			
結果と今後	<p>○農家は「この園地は何度植えても枯死していたが、今回の対策により栽培が継続できればありがたい」と期待しており、今後、無処理樹との生育比較や枯死率の変化などから効果を検証し、産地再生につながる技術の確立を目指す。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>陽性 陰性</p> <p>「モモ胴枯細菌病」簡易検定</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>土壌消毒灌注処理</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>土壌消毒処理後のビニール被覆</p> </div> </div>				



標 題	樹勢コントロールのコツを学ぶ		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室 南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年1月10日	場所	八幡浜市内栽培園地	
指導対象	「南予の媛小春」魅力アップ協議会 (15人)	連携機 関	みかん研究所	
普及指導 内容	<p>○「媛小春」の栽培上での課題解決や認知度向上を目指す同協議会は、収穫期を前に台木の異なる2つの園地で研修会を開催した。</p> <p>○樹勢の調整が重要な同品種において、おい性（樹高が低い）のヒリュウ台木園と、従来のカラタチ台木園の樹姿、着果状況を確認、比較した。</p> <p>○また、販売促進活動の概要や技術実証の経過を報告した。</p>			
結果と今後	<p>○ヒリュウ台木園は会員らの予想どおり、コンパクトな樹形で着果も良好であった。一方のカラタチ台木園は定植後4年の若木であったが会員らの予想に反して、玉太りや着果量が極めて良く、樹高も低く管理されていた。</p> <p>○状態が良いカラタチ台木園を見た会員は、樹勢管理ポイントとなるせん定時期や枝処理方法など熱心に質問していた。</p> <p>○参加した会員同士の意見交換では、台木の選択枝が増えることを喜ぶ声もあり、引き続き現地実証による検討を進めていく。</p>			
			<p>左：ヒリュウ台園を確認 中：良好な着果(カラタチ) 右：熱心に研修する会員</p>	


えひめ農業NOW


標 題	新規就農者等が鳥獣害対策の基礎を学ぶ		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年1月9日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	新規就農者、就農予定者他（35人）	連携機関	JA（えひめ未来、周桑）、新居浜市、西条市、日本政策金融公庫	
普及指導内容	<p>○新規就農者等が農業経営者として早期に自立し、地域の担い手として活躍できるよう、基礎知識や基本技術の習得を図るため「就農初期農業者研修会」を開催している。</p> <p>○9回目となる今回は、当室のえひめ地域鳥獣管理専門員から、「鳥獣対策のきほん」と題して、スライドや動画を用いて、野生動物による農作物の被害状況や動物の種類ごとの対策方法、センサーカメラ・電気柵等の使用方法について説明を行った。</p> <p>○また、当室から「さといもの栽培管理」「地域計画」について、日本政策金融公庫から「経済・消費に関する業種別動向」について情報提供を行うとともに、受講生からも農業機械メーカー主催の勉強会の案内をするなど、自発的な情報共有を行った。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは「鳥獣被害の深刻さがわかった」「鳥獣の種類ごとの対策方法が分かってよかった」「毎回色々な情報提供がありがたい」などの声が聞けた。</p> <p>○当研修会は、10回の開催予定で、次回最終回は、2月15日に、「花木の推進」や「野菜の廃棄部分を使った商品開発」などの発表を行い、研修終了後情報交換会を開催する予定。</p>			
				
		<p style="text-align: center;">左：えひめ地域鳥獣管理専門員による講習</p> <p style="text-align: center;">右：センサーカメラの説明を受ける受講生</p>		


標 題	一次産業女子が糶について研修		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年1月12日	場所	西条市丹原公民館	
指導対象	一次産業女子ネットワーク組織 たべとうみん（6人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○当室では、「たべとうみん」の活動における新たな加工品開発と既存商品（旬菜ボックス）の販路拡大を支援している。</p> <p>○当組織の会員は水稻を栽培する農業者が多いことから、今年度は米を活用した加工品開発に取り組んでいる。一次産業女子ネットワーク「さくらひめ」のメンバーで、発酵料理人の大谷りえ氏を講師に、糶の作り方及びその活用に関する研修会を開催し、加工品開発の一途とした。</p>			
結果と今後	<p>○会員からは「自身の野菜で糶を使った料理ができて学びになった」との声があった。</p> <p>○今後、既存商品のチラシ等に糶を使ったレシピを添えて発信することで、商品のレベルアップを目指す。また、酒造会社に糶の加工を依頼して販売することも検討する。</p> <p>○当室では、会員へ適宜情報提供や助言を行い、組織の自発的な活動を支援する。</p>			
				
		<p style="text-align: center;">左：糶の活用について学ぶ</p> <p style="text-align: center;">右：糶を活用した料理</p>		


標 題	長期貯蔵試験メロンの品質を評価		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年1月12日	場所	JA 周桑	
指導対象		連携機関	JA 周桑、MA 包装資材取扱事業者	
普及指導内容	<p>○当室と JA 周桑、MA 包装資材取扱事業者の三者で、MA 包装資材を利用し試験的に冷蔵貯蔵した秋作アムスメロンが年末に続き年始以降の商材として販売が可能かを検討した。</p> <p>○貯蔵は11月9日から約2か月間、MA 包装資材で包装のうえ2℃で冷蔵保存し、評価は外観と食味で行った。</p>			
結果と今後	<p>○果実には、尻部の赤く変色した傷みや、果実表面の部分的なカビの発生が見られた。</p> <p>○食味については、前回の年末の果実よりもやや甘味が低下していた。</p> <p>○引き続き、次年産メロンで、MA 包装資材を用いた貯蔵試験を行い、販売の可能性について検討する。</p>			
				<p>【MA 包装資材】 果実の鮮度保持に適した低酸素、高二酸化炭素状態に保つ透明の袋。</p> <p>左：変色とカビが発生 右：果肉断面</p>



標 題	いちご生産者等を対象にデジタルマーケティング講習会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年1月9日	場所	西条市丹原	
指導対象	いちご生産者（9人）、 新規就農者（26人）	連携機関	えひめ農業経営サポートセンター	
普及指導内容	<p>○いちご生産者が Instagram や X などの SNS を通じて、自身の青果物の魅力や販売情報を消費者に効果的に発信し、知名度の向上や価値の付加、集客・販路の拡大に資するスキルを習得するための講習会を開催した。</p> <p>○講師はえひめ農業経営サポートセンターから竹森まりえ氏を招き、①5大 SNS の特徴とビジネスにおける活用方法について、②4種類のネット販売方法の特徴等を学んだ。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「5大 SNS の特徴が良く分かった」「それぞれの特徴を意識しながら活用していきたい」との声があった。</p> <p>○実務的なテクニックについてもっと知りたいとの要望もあったことから、具体的な商品の PR 方法やリピーター獲得のためのアプローチ方法について、今後指導する。</p>			
				<p>【5大 SNS】 facebook、X (旧 twitter)、Instagram、LINE、YouTube を指す。 それぞれの SNS で利用年齢層や使用目的が異なる。</p> <p>左：講習を受ける生産者 右：5大 SNS の説明</p>

標 題	品質向上を目指したシキミせん定講習会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年1月23日	場所	西条市神戸	
指導対象	JA えひめ未来産直出荷者（24人）	連携機関	JA えひめ未来	
普及指導内容	<p>○西条市神戸の生産者ほ場で管内の産直（水都市やあかがね市等）出荷者を対象にしたシキミのせん定講習会を開催した。</p> <p>○講習会は現地ほ場で実際に枝を切りながらせん定方法の実演を行った。また、病害虫被害や生育が滞っている株が散見されることから、品質向上を目的に施肥や防除について指導した。</p> <p>○講習会が近年開催されていないこともあり、参加者から樹形の作り方が分からず樹高が高くなりすぎた株のせん定方法について質問があり、数年かけて段階的に低く切り下げ、横に広げる樹形づくりを指導した。</p>			
結果と今後	○参加者からは「品質を上げるため防除をしていきたい」「さっそくせん定をしたい」等の意見もあり、今後も継続して指導する。			
				せん定の実演


標 題	就農に向けて経営開始前に重点的に個別相談		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年1月12日、16日、17日、30日	場所	今治市	
指導対象	就農予定者（9人）	連携機関	今治市、JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○就農サポート支援チームでは、新たに農業経営に取り組む者が作成する青年等就農計画の作成及び補助事業の活用などについて、個別指導を実施した。</p> <p>○個別指導では、就農に向けた準備状況をはじめ、将来的に取り組む品目や面積、必要な機械・施設の整備、収支計画などを重点的に協議した。</p> <p>○また、同チームでは就農希望者への相談も実施しており、令和5年度はこれまでに22件の相談を受けている。</p>			
結果と今後	<p>○就農者は、経営開始に向けて農地の確保や機械・施設整備のための資金調達等計画的に取り組んでおり、今後も重点指導対象として継続的に指導する。</p> <p>○また、他産業に従事している就農希望者には基礎知識や資格を得るため、えひめ農業未来カレッジで学び直しを検討する相談者もあり、就農前研修についても支援する。</p>			
				<p>【就農サポート支援チーム】 県・市・JA・農業委員会からなり、新規就農者の育成をサポートしている。</p> <p>就農予定者への個別指導</p>


標 題	地域での担い手育成を思い家族経営協定を結ぶ		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年1月16日	場所	今治市役所	
指導対象	認定農業者（1戸）	連携機関	今治市	
普及指導内容	<p>○今治市初の女性農業委員が新たに家族経営協定を締結し、農業経営を安定的に継続するとともに、健康で豊かな農家生活を築くことを目標に掲げた。</p> <p>○今年度農業委員に就任したことを機に、当室に対して若手農業者育成に向けた支援制度について指導依頼があり、家族経営協定の仕組みを説明したところ、今回自らのかんきつ経営で協定書作成に取り組むことになったもの。</p>			
結果と今後	<p>○調印後、夫妻は「責任を持ちながら意欲的に農業に取り組み、経営について話し合いながら頑張りたい」と語り、新規就農者や女性農業者に対して、協定を結ぶことで認定農業者の共同申請や農業者年金などの制度支援が活用できることも伝えたいとの意向を示した。</p> <p>○今回の締結で、今治市の家族経営協定締結数は44組となった。</p>			
		<p>【家族経営協定】 家族農業経営にたずさわる各世帯員が、意欲とやりがいを持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指し、経営方針や役割分担などについて取り決めるもの。</p>		
		<p>家族経営協定締結調印式</p>		



標 題	神宮（かのみや）女性みかん学級を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年1月31日	場所	今治市乃万	
指導対象	かんきつ女性農業者（6人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○女性農業者の栽培技術の向上と経営参画を目的に「みかん学級」を開催し、病虫害対策やせん定方法について講義した。</p> <p>○会では、発生病虫害に応じた正しい農薬の選択や適期防除などの効果的な防除方法や女性でも作業しやすいようにするための樹高の切り下げや品種ごとのせん定方法について説明した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「去年は6月から7月にまとまった降雨があり、防除のタイミングが難しかった」「果梗枝（果実が成った後の枝）の処理はどうしたらよいか」など、今年度の栽培管理の反省や来年の栽培に向けた質問が挙がり、活発な意見交換がなされた。</p> <p>○来月はせん定実習を開催し、当室では引き続き実践的な指導を行う。</p>			
		<p>病虫害の効果的な防除方法について説明</p>		



標 題	簡易土壌診断でかんきつ園地の土壌改良を推進		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年1月10日	場所	上島町岩城（JA 岩城購買店舗）	
指導対象	土壌診断希望者（10人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○上島町岩城では、JA が肥料価格高騰対策の一環として推進する有機質資材を投入した土づくりに取り組んでおり、その場で簡易診断（pH、EC 測定）を行う土壌診断指導を実施した。</p> <p>○事前に広報で樹園地の土壌診断を呼びかけたところ 25 検体の持ち込みがあり、栽培概況を聞き取った後、測定結果をもとに個別に診断カルテと処方箋を作成し、土壌改良資材や堆肥の施用方法などの改善点を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○酸性土壌や塩類集積とみられる土壌が数件あり、安定生産の基本となる土づくりの重要性を再認識することができた。</p> <p>○農家からは、島内で容易に手に入る豚糞堆肥施用量等や注意点など、具体的な数値での説明が理解しやすかったと好評であった。</p>			
				<p>【pH】土の酸性やアルカリの傾向値 【EC】土の電気伝導度（土壌中の塩類（肥料成分）の残存量の相関値）</p> <p>左：栽培ヒアリングと土壌診断前処理 右：土壌簡易診断計測機</p>

標 題	廃ハウス資材を利用した低コストモデルハウスの建設開始		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年1月25日	場所	今治市朝倉	
指導対象	柑橘生産者（1人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○農業資材が高騰する中、高収益が見込めるかんきつ施設栽培が安価な設備投資で可能になるよう、廃棄されたハウス部材を利用する低コストハウスの建設を指導した。</p> <p>○ハウスの建設は「儲かるモデル産地育成システム確立実証事業」を活用し、廃棄されたパイプをカットして錆びていない部分を活用するほか、高価となる谷部材等には、一般建設資材のC鋼を加工した安価なオリジナル部材を使用した。</p>			
結果と今後	<p>○建設に係る材料費は、従来の約半分の約 468 万円/10a に抑えられる見込みで、引き続き生産者グループによる自主施工を指導し、施工費の削減にも取り組む。</p> <p>○今後は、ハウスの設計図面や自主施工の方法等を撮影した動画等をマニュアル化するとともに、間口の狭さや屋根の高さなどハウスの大きさに合わせた栽培管理を指導し、技術確立を図る。</p>			
				
廃棄ハウス部材の切出し作業		オリジナル部材の活用		自主施工によるコスト削減

標 題	今治産イタリア野菜を使用したメニュー化の提案		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年12月25日	場所	しまなみフレンチフィレール、 FURUKAWA	
指導対象	イタリア野菜生産者（6人）	連携機関	（株）フードスタイル	
普及指導内容	○今治産イタリア野菜の取引拡大のため、地元飲食店「しまなみフレンチフィレール」「FURUKAWA」を訪問し、栽培実証中の品目等を使用した料理のメニュー化を提案するとともに、納入品目や供給量等の取引条件について協議した。			
結果と今後	○協議の結果、各店で栽培実証中のマイナーな地元産イタリア野菜等を使用した新メニューが提供されることが決定した。「FURUKAWA」では、先行して1月よりパスタ、サラダの3メニューの提供が始まった。 ○食材を提供する店舗や新メニュー等の情報については、しまなみ食材の情報ポータルサイト「しまなみみんなのディッシュ」で随時発信、周知していく。			
				
メニュー化に向けた飲食店との協議		カーリーノケール等を使ったパスタ	メニューを紹介するブログ、SNS	




標 題	「新・農業人フェア」で就農相談に対応		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年1月20日	場所	東京国際フォーラム	
指導対象	新規就農相談者（10人）	連携機関	えひめ農林漁業振興機構	
普及指導内容	○東京都で開催された「新・農業人フェア 農業 EXPO」に出席し、えひめ農林漁業振興機構のブースを訪れた就農希望者の相談に対応した。 ○各種就農支援制度や中予管内の JA や公社における研修機関の支援内容等について説明を行った。			
結果と今後	○就農相談者からは、新規就農した具体事例についての質問が多く寄せられた。 ○また、就農相談者は女性が多く、まずは農業体験をしてみたいという理由から、一次産業女子ネットワーク・さくらひめの農業体験ツアーに興味を示す様子も見られた。 ○当室では、多様な人材の確保に向けて、今後も新規就農者や候補者の支援に努める。			
				
			左：「新・農業人フェア」の 相談会場 右：ブースでの就農相談	




標 題	農業研修生等を対象にパソコン簿記記帳を指導		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年1月31日	場所	えひめ農業未来カレッジ	
指導対象	JA えひめ中央新規就農研修センター 研修生及び新規就農者（22人）	連携 機関	JA えひめ中央新規就農研修センター	
普及指導 内容	<p>○新規就農者及びJAの就農研修生を対象とした経営基礎講座を開催した。</p> <p>○講師にはソリマチ株式会社のシニアマネージャー野津山氏を招き、パソコンを用いた複式簿記の記帳について演習を交え指導した。</p> <p>○当室からは、就農後に支援事業を活用する際には決算書の提出が必要になることを説明し、複式簿記の記帳を啓発した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は実際にパソコンでデモデータ操作しながら、日常仕分け入力から決算書作成までの手順を学び、「就農したら必要になるので学べてよかった」「税務申告までに必要な書類等がわかったので、今から準備しておきたい」など好評だった。</p> <p>○今後も就農候補者及び新規就農者の育成・定着に向けた支援を行う。</p>			
				<p>左：パソコン簿記の記帳について 解説</p> <p>右：ソフトの操作を指導</p>



標 題	農業女子がかんきつ低コストハウス・省力栽培 について学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年1月11日	場所	今治市伯方町	
指導対象	女性農業者（6人）	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○松山市中島の女性農業者組織「姫たちばな」が、今治市伯方町の阿部農園を視察し、「紅まどんな」の低コストハウスによる省力栽培について学んだ。</p> <p>○ハウスは25mm径の直管のみを使用した雨よけ式で、軒高は3mに抑えられ、運動会のテント型をしている。従来のAPハウスの設置費が1,000万円/10aを超えるのに対して、低コストハウスは300万円/10a程度と極めてコストが低い。</p> <p>○仕立て方法は低樹高の双幹形列植栽培で、ハウスの間に幅2.5mの作業道を設置し、乗用草刈機とスピードスプレーヤを導入して大幅な省力化を図っている。</p> <p>○阿部農園では4.8t/10aの収量を確保しており、楽で儲かる農業を目指している。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、低樹高仕立てと作業道設置による省力化に賛同の意見が多く聞かれ、中島には無いスピードスプレーヤによる防除は「これなら私一人でできる」と興味を示すとともに、「若い経営者にも是非見てほしい」との声があった。</p> <p>○当組織は、会員が自主的に農業経営に取り組むべく資質向上を目指しており、引き続き女性農業者の活躍を支援していく。</p>			
				<p>左：園主の説明を受ける会員</p> <p>右：園内作業道とスピードスプレーヤの実演</p>



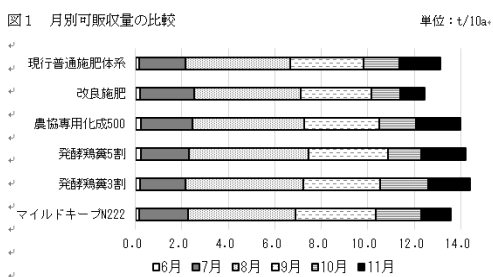
標 題	鳥獣害防止対策研修会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年1月31日	場所	松山市役所	
指導対象	松山市農業委員会委員 (33人)	連携機関	松山市、松山市農業委員会	
普及指導内容	<p>○イノシシやサル等の農作物被害が増加していることから、松山市の要請を受け、標記研修会を開催した。</p> <p>○動画でイノシシとサルの農作物被害対策の具体的な方法を紹介するとともに、集落ぐるみでの鳥獣被害防止対策が重要であることを説明した。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは、ハクビシンの侵入防止柵設置法や集落で取り組む具体的な鳥獣被害対策の進め方等、活発な質問が出された。</p> <p>○今後も管内の鳥獣被害低減に向け、関係機関等と連携し活動を継続する。</p>			
				
かんきつ園でのイノシシ被害		被害の現状や対応策を説明		個別相談にも対応



標 題	先進地事例を学んで集落営農組織の連携強化		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年1月24日	場所	ウェルピア伊予	
指導対象	伊予地区集落営農組織等連絡協議会 員 (20人)	連携機関	農地・担い手対策室、伊予市、松前町、 砥部町、JA(松山市、えひめ中央)	
普及指導内容	<p>○集落営農組織の経営安定とネットワーク機能の強化を図るため、研修会を開催した。</p> <p>○研修会では、西条市の「農事組合法人 吉田の取組みについて」元組合長の鈴鹿清重氏による基調講演を実施した。</p> <p>○また、農地・担い手対策室からは県内の集落営農の現状と課題について、当班からは集落で取り組むさといも栽培について話題提供を行った。</p> <p>○各組織による意見交換も行い、経営の実情や今後の課題を抽出した。</p>			
結果と今後	<p>○意見交換では、法人化と担い手の確保育成、優良農地の維持や規模拡大、さらには新たな農業機械の導入等について熱心な議論が行われ、組織間の連携強化など今後の方向性が明確となった。</p> <p>○集落営農での優良事例を参考に、管内での集落営農組織の経営の安定化を図り、優良農地の維持と地域農業の活性化を目指す。</p>			
				
左：活発な意見交換を実施			右：高収益品目として導入が進むさといも栽培	



標 題	「媛かぐや」の産地化を目指して		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年1月26日	場所	松前町役場	
指導対象		連携 機関	伊予市、松前町、砥部町、全農えひめ、 JA（松山市、えひめ中央）、県農林水 産研究所、FM えひめ 他	
普及指導 内容	<p>○地方局予算「媛かぐや産地育成事業」に係る第2回媛かぐや産地育成推進会議を開催し、本年度の取組みや課題解決に向けて協議した。</p> <p>○セル苗密植栽培の有効性は確認できたものの、「伊予美人（愛媛農試V2号）」との混植栽培は、水管理等のさらなる改善が必要であることを報告した。</p> <p>○推進会議メンバーに対し、「媛かぐや」の食味の理解を深めるため、「伊予美人」との味比べを行った。</p>			
結果と今後	<p>○「伊予美人」との混植栽培は継続し、セル苗の自家育苗技術を新規に導入する。</p> <p>○秋期の極度な乾燥により、目標収量に満たなかったことから、加工事業者との商品開発は次年度も継続検討する。</p> <p>○「媛かぐや」は良食味であるため、スイーツ用等の高単価で供給できる販路も検討。</p> <p>○産地形成には生産量の確保が重要であり、新規栽培者の掘り起こしや規模拡大に取り組む。</p>			
  			<p>左：今年度の取組みを協議 中：「媛かぐや」と「伊予美人」の食味確認 右：試食品（茹でたさといも）</p>	



標 題	「媛かぐや」の試食販売・PRを実施！		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年1月19日～21日	場所	イオン新潟南店及び新潟東店	
指導対象	一般消費者等	連携 機関	愛のくにえひめ営業本部	
普及指導 内容	<p>○産地化に取り組む「媛かぐや」の県外消費者への認知度向上を図るため、県営業本部が新潟県で開催する「愛媛県フェア」において、青果の店頭販売（450kg）及び試食によるPR活動を実施した。</p> <p>○「媛かぐや」の食味や販売形態、ニーズについて、消費者の反応を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○試食した消費者からは、一般的なさといもと比べて甘く上品な食味や、ねっとりせずほくほくとした食感などを評価する声が多く聞かれた。</p> <p>○一方、消費者から「どう調理するかわからない」「さといもとは思わなかった」などの困惑する声が聞かれたことから、一般消費者向けの青果販売を実施するには、調理方法や下処理について、店頭説明や資料配布が必須であると再認識できた。</p> <p>○引き続き、「媛かぐや」のPRを通じて認知度向上に努めるとともに、本品種が有する加工適性を活かした流通販売体制の構築を目指す。</p>			
  			<p>左：「媛かぐや」の販売形態 右：商品説明と試食</p>	


標 題	「媛かぐや」の消費拡大に向け、調理研修会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年1月12日	場所	IYO 夢みらい館	
指導対象	女性農業者組織「あいネットワーク」 「葉れるや」会員（8人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○「媛かぐや」の消費拡大に向けた加工利用を検討するため、女性農業者組織による「媛かぐや」の調理研修会を開催した。</p> <p>○新たな産地化を目指す「媛かぐや」の特性や食味について説明し、実際に調理・試食することで、食材としての理解を深め消費拡大を図るとともに、栽培啓発を行った。</p>			
結果と今後	<p>○旨味が強く、他のさといもとは違う食感に驚く会員が多く、油との相性が良いことから「食材として調理や加工の幅があり有望である」との声が聞かれた。</p> <p>○引き続き、同様の研修会の開催を通じ、女性農業者のスキルアップと活躍を促進するとともに、「媛かぐや」消費拡大及び需要創出に努める。</p>			
				<p>左:「媛かぐや」の特性について解説</p> <p>右:調理された「媛かぐや」</p>



標 題	夏秋トマト・ピーマンの実証成果を報告		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年12月～令和6年1月	場所	JA 松山市久万支所他	
指導対象	JA 松山市トマト部会員（82人）、 JA 松山市ピーマン部会員（110人）	連携機関	JA 松山市、JA 全農えひめ、久万高原町	
普及指導内容	<p>○JA 部会員を対象としたトマト及びピーマンの実績検討会において、当班技術普及グループが実施した今年度の実証成果について報告した。</p> <p>○トマトに関しては、細霧冷房の導入により夏場の高温状態を低減し、約10%の増収効果があったこと及び、害虫忌避剤の活用によりハウス内のコナジラミ類の個体数が約50%低減したこと等について報告した。</p> <p>○ピーマンに関しては、肥料価格高騰対策として慣行施肥より安価な施肥体系について検討した結果、慣行施肥とほぼ同等の収量が得られたことを周知した。</p>			
結果と今後	<p>○両品目において課題となっている夏場の高温対策や環境に優しい栽培技術の普及、コスト低減に関する技術改善の判断材料を提供することができた。</p> <p>○来年度も新品種や資材等に係る実証試験を継続し、産地の維持・発展に努める。</p>			
			<p>図1 月別可収収量の比較 単位：t/10a</p> 	
<p>実証ほ場での成果を報告</p>	<p>トマトハウスでの細霧冷房装置</p>		<p>ピーマンの低コスト施肥体系における収量</p>	


標 題	グリーンな栽培体系の普及推進		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年1月25日	場所	久万高原町産業文化会館	
指導対象	道の駅出荷者（24人）	連携機関	道の駅天空の郷さんさん、道の駅みかわ、久万高原町	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○環境への負荷を軽減し、安全かつ良質な農産物の供給に資するため、道の駅出荷者等を対象に有機農業講座を開催した。 ○当班技術普及グループにおける有機栽培の実証成果と農薬の適正使用についてのポイントを指導したほか、種苗会社からサツマイモ等、春野菜の栽培方法や有機農産物の品質について説明された。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者からは、サツマイモの糖度を上げる方法や適切な保存方法、さらには、害虫対策等について多くの質問があり、関心の高さが伺えた。 ○今後も消費者の需要に対応した有機栽培等による農産物の生産振興を通じ、有機農業に対する理解促進と環境に配慮した栽培体系の普及を図る。 			
				<p>左：栽培実証成果について報告 右：実証ほ場内での有機栽培実証（微小害虫の侵入抑制シート）</p>



標 題	パクチー冬季栽培の取り組み		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年1月	場所	松山市、東温市、砥部町の各ほ場	
指導対象	パクチー生産者（13人）	連携機関	松山市、東温市、砥部町、JA えひめ中央	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○パクチーの周年安定生産体制の確立を図るため、冬期の安定出荷を目的に実証ほの設置による栽培技術の検討を行っている。 ○冬季栽培に取り組む4人（うち新規栽培者3人）は、昨年10月以降段階的に播種しており、12月から不織布資材でトンネル被覆し管理している。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○比較的温暖なほ場では、10月上旬播種の作型が1月中旬からの収穫となり、3か月程度の栽培期間となったが、10月中旬以降の播種では気温の低下により生育が遅れ、栽培期間が4か月程度となる見込み。 ○寒冷なほ場での10月上旬播種では、更に生育が遅れ、収穫は2月以降になる見込みであるが、現在のところ寒害による影響は見られていない。 ○今後もほ場条件による播種時期と生育の関係を調査し、時期に応じた適切な管理方法を検討するとともに、安定生産体系の確立を目指す。 			
				<p>左：収穫期を迎えたパクチー（1/9 東温市） 右：トンネル被覆栽培（1/22 松山市）</p>



標 題	さといも優良種芋の安定生産に向けて		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年1月11日	場所	南予地方局、宇和島市	
指導対象	種芋生産者ほか	連携機関	農林水産研究所、JA 全農えひめ JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○宇和島圏域水田さといも生産振興協議会を開催し、今作の栽培状況を踏まえた課題や県内各 JA からの種芋要望数量、今後の種芋生産等について協議した。</p> <p>○今作はセル苗増殖において、親芋の伏せこみを1か月早めたことで順調な生育となったことや、県下の種芋要望数量を満たす生産量が確保できたことなどを報告。</p> <p>○2月下旬からの種芋出荷に向けては、ハウス貯蔵やもみ殻・不織布を活用した露地貯蔵の方法について、定期的に技術指導を行うこととしている。</p>			
結果と今後	<p>○農林水産研究所と連携した今後の種芋生産や、管内での新規種芋栽培者確保に向けた方向性を申し合わせた。</p> <p>○種芋の出荷は約1か月と短期間であるため、天候を考慮した計画的な出荷を目指す。</p>			
				<p>左：種芋のハウス貯蔵</p> <p>右：もみ殻、不織布を用いた露地貯蔵</p>

標 題	集落営農の連携強化について協議		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年1月18日	場所	宇和島市	
指導対象	宇和島市内の農事組合法人（2法人）	連携機関	宇和島市	
普及指導内容	<p>○集落営農を進める2法人が人材交流や機械の共同利用等で連携し、経営の拡大、強化を図ることを目的に両法人の代表と協議を行った。</p> <p>○当室が示した2法人の水稻の年間作業と機械の稼働状況の資料をもとに、田植機やコンバイン等の機械種別に相互に利用できる可能性や問題点などを洗い出した。</p>			
結果と今後	<p>○2法人の水稻栽培は、品種や作型が若干異なり、移植や稲刈りの時期が重ならないことから作業の連携が可能であることや、面積拡大に向け、オペレーターの確保や乾燥機的能力向上等が課題であることがわかった。</p> <p>○両法人は、コンバインの貸し借りをを行うなどの協力関係にあることから、これまで以上に連携が図られるよう、協力作業の提案や、オペレーター確保のための支援を実施していく。</p>			
		<p>2 法人代表と組織間連携の協議</p>		

標 題	管理しやすい園地へ！くりせん定講習会を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年1月18日	場所	鬼北町	
指導対象	JA えひめ南鬼北くり同志会員	連携 機関	JA えひめ南、鬼北町、松野町	
普及指導 内容	<p>○管内では、生産者の高齢化や担い手不足等で管理不足となり、作業性や生産性が低下している園地が散見される。</p> <p>○栽培管理しやすい園地づくりに向け、主枝のカットバックによる低樹高化するせん定技術について講習会を開催した。</p> <p>○また、低樹高化した園地のイメージをつかむことを目的に、当班の実証園地に移動し、見本樹を用いた説明を行った。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは「一時的な減収はあるが、作業性が向上し将来的な収量増加が見込めるなら実践したい」などの声が聞かれた。</p> <p>○引き続き、生産性向上に向けた技術の普及に努め、生産者の確保および生産量の増加につなげていく。</p>			
				<p>左：カットバックする位置を説明 右：処理後のくりの樹</p>

標 題	鳥獣捕獲のためのくくり罠設置指導		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年1月19日	場所	愛南町御荘菊川	
指導対象	青年農業者1名	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○今年度新たに狩猟免許を取得した青年農業者に、くくり罠の設置方法等を指導した。</p> <p>○設置個所を決めるには、鳥獣の痕跡が重要であることを説明し、新しい足跡、樹皮剥ぎなどの痕跡を見回りながら確認を行った。あわせて防護柵が破られて侵入口となっている場所のチェックを入念に行った。</p>			
結果と今後	<p>○後日、青年農業者から「初めてイノシシの捕獲に成功し、罠での捕獲に自信が持てた」との連絡があった</p> <p>○今後も当班では、青年農業者等を対象に、狩猟免許の取得推進や捕獲技術向上のための支援を行う。</p>			
		<p>くくり罠の設置の様子</p>		

標 題	西予市の就農支援事例を調査		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年1月23日	場所	西予市	
指導対象		連携 機関	愛南町、JA えひめ南	
普及指導 内容	<p>○愛南町農林課、JA えひめ南南宇和営農センターとともに、西予市での就農支援事例調査を実施。愛南町ではIターン就農の事例が少ないことから、独自の支援策を設けている西予市の事例を調査した。</p> <p>○同市では旧市町ごとのサポート体制に違いがあり、基幹品目の異なる明浜地区と野村地区の事例について移住就農者を交えて意見交換した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「移住就農者や研修生の受け入れは、集落内の農業者の理解と協力が必要不可欠であることが再認識できた」との感想が聞かれた。</p> <p>○今後、Iターンを含む就農者確保に向け、愛南地域独自支援やサポート強化策について協議していく。</p>			
				<p>左：明浜町独自の支援策を 研修</p> <p>右：横林地区での就農事例 を研修</p>

標 題	媛小春販売戦略を協議		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年1月19日	場所	宇和島市玉津	
指導対象	南予の媛小春魅力アップ協議会員	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○「媛小春」の商品価値の向上と消費者への認知度アップを目指す当室は、魅力を伝えるPR手法や販売戦略について販売事業者と協議を行った。</p> <p>○地方局予算「南予の媛小春魅力アップ事業」を活用し、特長紹介のリーフレットやのぼり等の広告宣伝物を制作した。地域特産品としての印象付けを図るため、ふるさと納税との連携について検討した。</p>			
結果と今後	<p>○同事業者によると、返礼品として登録している媛小春に既に多くの申し込みを受けており、PR資材の同梱や販売拡大に積極的に協力していきたいとのこと。</p> <p>○今後は、貯蔵性の高さを生かし、ブラッドオレンジ等の南予独特品目との組み合わせ商品の造成について検討を進めていく。</p>			
				<p>左：南予らしさを表現する 方法を協議</p> <p>右：媛小春がこみきゃん になる包装資材</p>

標 題	つるむらさきの販促活動状況を報告		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年1月23日	場所	JA えひめ南三間営農センター	
指導対象	JA えひめ南軟弱野菜部会員（12人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	○同部会員に対し、今年度実施した「つるむらさき」の需要拡大対策を報告。JA や部長と連携した新規県外市場や管内飲食店等への営業活動のほか、中予地域の需要掘り起こしを狙った店舗ジャック販促イベントなど、様々な取組みを紹介した。			
結果と今後	○参加者からPR活動を高く評価する声や「(JA や県だけでなく)生産者が当事者として販促活動を行うことも考えるべき」といった意見が挙がった。 ○今年度の販売実績は昨年度比で115%と順調に増加した。 ○2月には、管内で問題となっているネコブセンチュウ害対策として、土壌消毒実証を行う予定である。			





左：自作したPRデザイン
右：販促活動を報告

標 題	イノシシ効率捕獲に向けた新しい撒き餌を提案		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年1月16日、20日	場所	八幡浜市川上・真穴地区	
指導対象	八幡浜市猟友会神山支部（川上）、真穴地区の生産者（30人）	連携機関	八幡浜市猟友会神山支部（真穴）	
普及指導内容	○八幡浜市では、イノシシによる農作物被害が年々増加し、捕獲により個体数を減らす必要があるものの、撒き餌とする温州みかんが調達できない時期は捕獲が進んでいなかった。 ○そこで当室では、新たな撒き餌として「家畜飼料」の利用を検討し、従来使われている米ぬかとの比較を行ったところ、米ぬかに比べて捕獲実績が上がり、費用対効果も高いことが分かった。 ○この結果を資料にまとめ、地区の生産者や猟友会会員に技術提案を行った。			
結果と今後	○猟友会会員からは「温州みかん収穫前の捕獲強化が期待できる」「温州みかんがなくなったら、積極的に試したい」、真穴地区の生産者からは「家畜飼料を手軽に購入できるような体制を作りたい」といった反応があった。 ○今後は、家畜飼料を利用する生産者に適切な餌付け方法を説明しつつ、捕獲実績が上がるよう指導する。			


【撒き餌】
イノシシを箱わな内へと誘引するために置くエサのこと。箱わなの内側まで入ったイノシシがトリガーに触れると、扉が落下して捕獲することができる。






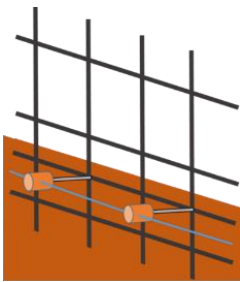




家畜飼料への高い嗜好性


川上地区の捕獲者に報告

標 題	個別巡回により新規就農者の悩みを解決		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年1月18日～30日	場所	新規就農者園地（八幡浜市）	
指導対象	新規就農者（11人）	連携機関	八幡浜市、JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○農業次世代人材投資事業及び経営開始資金交付対象者を中心に、経営・栽培技術の両面から巡回サポートを行った。</p> <p>○巡回では、今年度の収量や課題等の聞き取りのほか、地方局予算「南予儲かる農業人材育成事業」により作成した経営指標を参考に今後の経営方針の指導を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○新規就農者の多くが収穫時の労働力確保に苦労していたため、確保の手法を指導したほか、栽培技術の習得については、今回の意見を集約し、シトラス講座による集団指導に加え、きめ細かな個別指導も行っていく。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、日頃の悩みや要望等に沿い、各経営体にあった個別指導を行い、新規就農者の早期経営安定に努める。</p>			
				<p>今後の経営を見据えた指導</p>

標 題	子供連れ参加で農業女子の交流促進		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 " 西予農業指導班
年月日	令和6年1月26日	場所	かりえ笑学校（西予市）	
指導対象	∞農 Harvest（八西地区一次産業女子）、フレッシュあぐり媛（西予市の若手農業女子） 各会員（9人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○他地域の会員との交流と、子育て中の農業女子が気軽に参加できる場を創出するため、八西地区と西予市の一次産業女子組織間の新たな交流研修会を開催した。</p> <p>○自己紹介や各組織の活動紹介をしたあと、会員同士のアイスブレイクの場を設定し、日頃の子育ての悩みや農業との両立などの情報交換を促した。</p>			
結果と今後	<p>○他地域の会員と交流は初めての試みで、これまでと違った考えや情報が交換できたことで、農業への取組みや組織活動を新たな視点で考えてもらえる機会となった。</p> <p>○参加した会員からは「子連れで気兼ねなく参加でき、情報交換できて嬉しかった」「同世代の子育ての悩みを相談でき、気が楽になった」といった声が聞かれた。</p> <p>○今後、子連れで気兼ねなく参加できるスタイルを定着させ、より多くの農業女子が研修や交流の場に参加できる体制を整え、交流を促進していく。</p>			
				<p>左：子供連れで参加した会員たち 右：他地区の情報収集</p>

標 題	青年農業者が新たな防護技術を学ぶ		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年1月10日	場所	内子町青年農業者の家	
指導対象	内子町青年農業者協議会員（10人）	連携機関	内子町、JA愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○青年農業者協議会定例会において、大瀬南地区の柿園地で行った電線固定器具（ガイシ）を利用した防護柵強化技術の実証結果を報告した。</p> <p>○本技術は、ワイヤーメッシュ柵の外側に電線を1本設置し、イノシシやタヌキといった獣類の侵入を防止するもの。園地で撮影した動画も紹介しながら、その効果や必要な作業時間、コスト等を解説し、被害発生園での対策強化を呼びかけた。</p>			
結果と今後	<p>○実際に設置した時の強度に関する質問が出たほか、自分の園地で試してみたいという反応もあるなど、栽培品目を問わず、青年農業者の鳥獣害対策への関心を高められた。</p> <p>○今後、導入意向があった青年農業者に対し現地確認を行い、設置方法等を指導する。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;">  <p>左：鳥獣害対策への関心は高い 右：設置時のイメージ</p> </div> </div>				

標 題	マイネットと若手女性農業者がワークショップで交流		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年1月17日	場所	西予市宇和町	
指導対象	マイネット会員（10人）、 若手女性農業者（10人）	連携機関	西予市	
普及指導内容	<p>○西予市内で、農業経営のパートナーとして活躍する女性組織「マイネット」が、若手女性農業者との交流会を開催した。</p> <p>○交流会では、新たに発掘した女性農業者4人も参加し、世代間交流によるふるさと料理づくりや農業女子の魅力ある未来像を描くワークショップを実施し、資質の向上に努めた。</p>			
結果と今後	<p>○ワークショップでは、グループごとに「農業女子のいいところさがし」「これから先のやってみたいこと」などを書き出し、様々なアドバイスを受けることで、将来についても考えられる機会となり、明るい希望が持てたという声が多く聞かれた。</p> <p>○今後も地域リーダーと成り得る女性農業者の育成に向け、マイネットと連携し継続した活動を支援する。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;">  <p>左：ふるさと料理づくりで交流 右：ワークショップで夢を書き出す</p> </div> </div>				

標 題	青ねぎの先進地（四国中央市）への視察研修		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和6年1月16日	場所	四国中央市	
指導対象	西予市内青ネギ生産農家	連携機関	四国中央農業指導班、 西予農業指導班	
普及指導内容	<p>○当室で産地化を支援している西予市産青ネギは、高品質安定生産が課題となっている。</p> <p>○関係者と協議を重ねた結果、当産地の課題克服及び発展のため、ネギ栽培農家とともに他産地での優良栽培事例を視察することとなった。</p>			
結果と今後	<p>○病虫害防除（夜間防除）やトンネル栽培の実施、畝の上面のみにマルチを被覆するトップマルチによる排水対策等の先進的栽培事例の紹介があり、高品質安定生産に向けて当産地への導入を関係者と協議する予定。</p> <p>○参加した農家からは「新たな栽培技術を学ぶことができ有意義であった。引き続き、県を中心に高品質安定生産ができるよう指導願いたい」との声が上がったことから、今後も勉強会等を開催し、産地化を支援していく。</p>			
 <p>左：青ねぎの栽培状況の説明 中：トンネル栽培の実施 右：トップマルチイメージ図（過湿予防効果がある）</p>				

標 題	県下の優良園地から「紅プリンセス」の栽培技術を学ぶ		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年1月23日	場所	県農林水産研究所果樹研究センター	
指導対象	普及指導員等（33人）	連携機関	各地方局・支局地域農業育成室、産地戦略推進室、果樹研究センター	
普及指導内容	<p>○当グループは「紅プリンセス」の高品質安定生産技術の確立を目指し、普及機関等と協力して県内11か所で栽培実態調査に取り組んでいる。</p> <p>○今回、果樹調査研究会を開催し、速やかに調査結果を共有するとともに栽培技術や指導力向上を図った。</p>			
結果と今後	<p>○会議では、当グループや中予地方局による生理障害が発生しやすい園地や優良園地の特徴の分析結果報告や、果樹研究センターによる整枝・せん定技術の説明、伊予市の優良園地視察を行い、現地指導方針を一致させるため高品質栽培技術について意見交換を行った。</p> <p>○今後も高品質安定生産を目指し、関係機関と連携のうえ「紅プリンセス」の産地拡大に取り組む。</p>			
 <p>先行導入園地の栽培実態調査 果樹調査研究会で結果を共有 整枝せん定技術の解説</p>				

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543